

「家がいいね」 第52号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2008. 9. 2

映画は家族と人生を映し出す

黒澤明監督の没後10年

を記念し、TV放映がされました。1952年の作品

「生きる」は、胃癌の闘病

記と考えていましたが、違

いを伝えられず、すれ違いが

続き、部下だった娘の生活に寄り添っても答えは出ない。「あなたも何か作ったら」と言われ、生きるミイラとのあだ名の彼は、役所の未決案件の山から、公園設立の嘆願書を引き出す。奮闘は彼自身が生きるためだった。奇跡的に完成した公園で



ブランコに揺れながら「命短し恋せよ乙女」と唄いつつ彼は絶命する。通夜の客が語る言葉で初めて彼の行動の意味が明らかになるが全てではない。刹那でも人生を生きる事が難しいのは、感激した同僚達が職場に戻った翌日、窓口の嘆願に「ああ、それなら〇〇課へ行って下さい」と、かつての彼と同じ口調で言うラストシーンで示される。ぜひDVDでも、ご覧になったらと思う映画です。

進富座で上映中の映画で

も、思いが微妙にすれ違う家族の日常が写しだされています。是枝裕和監督が母



「歩いても 歩いても」は、

映画の2時間では何も起こ

らない。人命救助で水死した長男の命日、老いた

両親の家に弟妹達の家族がやってくる。「ふと口に

した約束は果たされず、ちいさな胸騒ぎは見過ご

される。人生はいつもちよっとだけ間に合わない

ことに満ちているのだ」とのテーマは、映画での

親子の遣り取りをわが身になぞらえて笑った後で、

わびしく胸に落ちてきます。9月17日まで上映

中です。この伊勢に映画文化を残し続けておられ

る進富座さんに本当に感謝です。ぜひご覧下さい。

「こんなに急に」と看取りの場で言われますが、

後になって思ふ事が、確かに人生には多いのです。

余生を過ごす建物の形は收容所？

訪問していい家だなあと考えるのは、門や玄関で早くもどんな人が住んでいるんだろうと思わせる生活の色取りがあるからです。病院や介護施設、そして「高齢者住宅」などが好いとは思えないのは、四角い建物・居室にその人の生活が押し込められるからです。いくら内装は良くても、「管理されている」所に住みたくはないだろうなと思います。しかしそんな建物が増えています。

家族が食べられなくなったとき・・・

「終わりよければ」いせの会が、市民向けの集いを開きます。自力で食べられない状況から、医療・介護の大きな転回点が始まりますが、本人や家族が後から悔いの少ない決定をすることは、本当に出来ているでしょうか。互いに考えてみましょう。参加無料です。

● 9月28日(日) 13:17時 いせピア ホール
なぜ食べられなくなるのでしょうか

福家 智仁さん(日赤 耳鼻科医師)

● どうしたら、もう一度、食べられますか

梅垣 佳津枝さん(丹波市 松寿園 管理栄養士)

● 病院ではどういう方法をすすめますか

大山田 純さん(日赤 消化器科医師)

● 語り合ってみましょう、こんな事例ではどうすれば

9月の臨時休業です

伊勢市内の小学校運動会が、20日に予定されるため、ご配慮をよろしくお願い申し上げます。

9月18日(木) 代替 開院

9月19日(金) 通常どおり開院

9月20日(土) 臨時 休診



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp

<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>